

トアール留学生の編集後記

2024年6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10 端午节(祝日)	11	12	13	14 授業終了	15
16	17 留学生卒業式 (復習期間)	18 (復習期間)	19 (復習期間)	20 期末試験	21 期末試験 打上げパーティ	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

トアール1日、6月6日木曜日、天候超晴れ、最低気温19℃、最高気温37℃、太原の夏はウルトラマンモス暑くて、うんざりです。現地の人に「毎年こんなに暑いのか？」と聞くと「そだよ、7月はまだ暑いよ！」とあっさりかわされてしまいました。この日は通常授業。8時時点での出席者は4名、12時の授業終了時点で18名。期末試験に向け、独学に走る留学生や、中国語検定試験に合格するため、授業には見切りをつけてしまった留学生等、十人十色です。図書館が混雑し始めるのもこの頃からです。普段から結構、多くの学生が利用しており、混雑しているのですが、この時期は普段不真面目な学生に限って利用し始めるため、座席の確保が至極困難です。階段や地べたに座って勉強する姿は当たり前、トイレの中でも音読練習に励む学生も見受けられます。私が毎日利用していた朗読空間もこの時期はカオス状態。座席確保の裏ワザも教えてもらったのですが、それでも座席確保は難しく、図書館の利用は諦めました。私に発音のマンツーマン指導をしていた学生諸君にも、6月に入ると「期末試験の準備で手一杯なのでゴメンナサイ。」と軒並み断られる有様です。「一週間の中のたったの1時間、気分転換にちょうどいいんじゃないのかな。」という言葉がのど元まで出かかったのですが、グッと夕陽のガンマン。ボランティアで教えてくれていた学生諸君に文句を言える筋合いは全くもってナッシン

グです。期末試験の科目数や日程がひとそれぞれなのは、日本と同じ。期末試験終了 = 2か月超の長い夏休みの始まりです。留学生の最後の授業では、何かお涙頂戴ものの儀式でもあるのかな、と思いきや、そんなものは全くなし。先生は「じゃ、期末試験に向け、一生懸命勉強するように。」とあっさりしたものです。中国では授業終了から期末試験開始まで「復習期間」という期間があります。期末試験に向けてしっかり復習しなさい！みたいな不思議な期間、それだけ期末試験が重要ということでしょう。1月の前期末試験の時には、復習期間が10日近くもありました。17日が留学生卒業式、21日の期末試験終了後に、中級班では簡単な打上げパーティのようなものがあり、留學生活の全日程がすべて終了です。

6月の山西大学図書館の様子



今月のベストショット



全員中級班のクラスメイトです。インドネシア人留学生一人であとはベトナム人留学生。後期から午後・夜間の選択授業というものが始まり、書道、工芸、絵画、楽器など自由に選択して受講できるものです。毎週金曜日の午後3時からの2時間、私は書道を選択したのですが、そこで一緒になったメンバーです。普段の授業ではゆっくり話す機会は少ないのですが、この選択授業は比較的”ゆる〜い”時間。おしゃべり、おやつ等何でもありの自由な授業です。ほぼ固定メンバーなので、毎回色々な話で盛り上がり、とても楽しいひとときでした。6月14日の最後の授業では、ベトナム人留学生のクラスメイトが果物を持ってくると言っていたので、私もネットで購入した日本のお菓子をたくさん持参、事務の先生も加わり、最後はとても楽しい授業（というより集まり）になりました。私が「ベトナム料理って興味がある、食べてみたい！」と言ったところ、日本のお菓子のお礼にとベトナム料理を振る舞ってくれることになりました。彼女たちは毎日自炊生活ゆえ、お茶の子さいさいのようです。6月16日の日曜日正午、あまりにもいいお天気なので、近くの公園で食事することに決定。その時のワンショットです。



3月分レポートで紹介したロシア語専攻3年生のCさん。彼女と出逢ったのは2024年3月2日土曜日、場所は山西大学坞城校区図書館3階の朗読空間。この時期、たくさんのネイティブから声をかけられていたので、ぶっちゃけ彼女と出逢った時の記憶はあまり鮮明ではありません。その他大勢の一人でした。ただ、人懐っこい、こぼれるような笑顔で話しかけてきてくれたのだけはよ〜く覚えています。相当私に興味を持った様で次々に質問してくる彼女、何の警戒心も持っていない様子でした。「この女性発音のレッスンをお願いして大丈夫だな。」と確信、彼女とのレッスンは毎週土曜日午後1時から2時まで in 朗読空間と決定しました。彼女と過ごす時間はことの外楽しく、毎週土曜日が待ち遠しくなり、私は目一杯オシャレをして出掛けるようになりました。土曜日の午後は遊びに誘われることも多くなってきたこの頃ですが、この日だけはすべて断り、彼女との時間を最優先にしました。1時間のレッスンが終わっても話が尽きることはなく、気が付いたら午後4時半を回っていた、ということもありました。もっと早く出逢いたかった！と心から思いましたが、3ヶ月という時間はあまりにも短く、別れの時が否応なく迫ってきます。私にマンツーマンで発音指導してくれるネイティブは4月には6人に

まで膨れ上がりましたが、6月の期末試験の時期を迎えると、軒並み「ごめんなさい。」とレッスンを断るようになりました。課外活動等は一切評価の対象外、成績のみが唯一の評価基準であるネイティブにとって致し方のないことだ、と悟りました。ボランティアで私の発音指導にうつつを抜かしているヒマなどもってのほかです。就職を控えた3年生にとって、期末試験の成績はこの外重要、試験科目も最も多いと聞きましたが、彼女からはレッスン中止のメールは来ません。彼女は中国人には珍しく、自分の事より他人の事を先に考えるような性格です。苦渋の決断でしたが、私の方から「私も自分の期末試験の勉強で忙しくなってきたので、レッスンは休みましょう。」とメールを送ったところ、「何を言っているんですか？レッスンをやりましょう。」とのメール。気丈に振る舞っているのは目に見えており、どうすべきか迷ったのですが、きっちり1時間で終わりにする約束で、ただ1人レッスンを続けることにしました。彼女とは写真もたくさん撮りましたが、これが太原での彼女との最後の1枚です。時は2024年6月15日土曜日。この日のレッスンで私はガラにもなく涙が溢れそうになりましたが、彼女は最後まで弾ける様な笑顔を崩す事はありませんでした。この4日後の6月19日、午前中に期末試験を終えた彼女はこの日の午後、故郷の河北省邢台市へ帰って行きました。この日は会えなかったのですが、夜に届いた彼女からのメール「ありがとう大介、また会いたいね（谢谢大介！希望有机会再见！）。」寮の部屋で、どっと涙が溢れました。お礼を言わなければならないのは私の方。この1年、中国で泣いたのは、後にも先にもこれ1回きりです。わずか3ヶ月間でしたが、私のようなオッサンの中国語の勉強のために、毎週欠かさずお休みの日の大切な時間を割いてくれたことに、あらためて感謝すると同時に「私は彼女に何をしてあげたんだろう。」と後悔の念も湧き上がってきました。留学期間中にこんな素敵な出逢いに恵まれるなんて、まさに想定外、お金では決して買えない宝物を掘り当てた感じで、私はこの上ない幸せ者です。この写真が最後の1枚で終わることがないように祈るばかりです。「もし次回、中国を訪れる時、真っ先に会いたいのは誰か??」と問われたら、きっと私は「○○○なCさん」と答えると思います（○○○に入る適切な日本語がどうしても見つかりませんでした）。

以上、最後のレポートはちょっとおセンチになってしまいました。1年余りに渡ったトータル色んなネイティブとの物語はこれにて終了です。合掌🙏

トアール日の食事

- ① 朝食 (学内) おかゆ (のようなもの) + ハンバーガー (のようなもの) 6元

朝も本当に食べるものがなくなりました。

真っ白な炊きたてのご飯に明太子をのせてガッツリ食べたいです、はいっ。

卵焼きと味噌汁がついていればなおいい！

- ② 昼食 (学内) ピリ辛の麻辣面という麺料理。この辛さを頭に焼き付けておこうと、注文しました。12元

- ③ 夕食 (学内) キクラゲの卵炒め おいしいのは確かですが、カロリー高すぎ。14元

この日の食事代計 32元

①



②



③

